2015

HPS スキルアップ講座
アドバンス・ホスピタル・プレイの実施
～HPS 資格の再登録制度と上級 HPS 制度の確立を目指して～

平成 27 年度　三鷹ネットワーク大学推進機構

「民学産公」協働研究事業

NPO 法人ホスピタル・プレイ協会
すべての子どもの遊びと支援を考える会

目次

1.　「民学産公」協働研究事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２

2.　申請団体のプロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２

3.　参加団体のプロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

4.　協働研究事業の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

5.　協働研究事業の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

6.　協働研究事業の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５

7.　開催結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６～18

8.　考察および今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19

1.　「民学産公」協働研究事業の概要

・目的

日本の病児や障害児のウェルビーイングを向上させるためには、交通の利便性が高い地域で、病児や障害児にかかわる専門職が学ぶ場を創造しながら、ホスピタル･プレイのすそ野を広げる活動を進めつつ、ホスピタル･プレイ･スペシャリストという専門職を発展させるシステムを作る必要があると考えられる。

今回の協働研究事業では、日々の業務の中で困惑している小児医療･児童福祉関係者に新しい知見を提供するために、ホスピタル･プレイ講座を開催しながら、すでに資格を保有している HPS にも学びの場を提供し、専門職として認められるために必要不可欠な再登録制度のシステムを構築するための事業をおこなうことを目的とする。

・方法

小児医療･児童福祉にかかわる多様な専門職を対象としてアドバンス･ホスピタル･プレイ講座を開催する。講師は、海外からの先進的な遊び支援の専門家を招へいし、遊び支援の理論から実践までを学ぶ。昨年度の講座で特にニーズの高かった死にゆく子どもと家族への支援をさらに学び、日本においてまだ着手されていないグリーフィングの支援方法についても模索する。

３日間を１クールとすることを基本とするが、広く HPS の視点を持った専門職の養成のため、１日のみの参加も可能とする。

2.　申請団体のプロフィール

静岡県公立大学法人静岡県立大学は、５学部と大学院、短期大学部、研究所の総力を結集し､｢県民の誇りとなる価値ある大学｣の実現に向け､教育研究活動を実践するべく、

1. たゆみなく発展する大学を目指す
2. 卓越した教育と高い学術性を備えた研究の推進
3. 学生生活の質（QOL）を重視した勉学環境の整備
4. 大学の存在価値を向上させる経営体制の確立
5. 地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指す

という５つの基本理念を掲げている。

さらに、本学では上記の基本理念を実現するために、教育・研究・地域貢献・国際交流において、次の目標を掲げる。

1. 教育

学生を第一に考え、学生生活の質（QOL）の向上を図り、高度かつ秀逸できめ細やかな教育を提供することで、社会に貢献できる有為な人材を育成する

2. 研究

静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進する

3. 地域貢献

県民の負託に応え、県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元する

4. 国際交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、また世界に情報発信することにより、静岡県の国際交流の強力な推進力となる

以上の目標を達成するため、学術的・人的資源を最大限に活用した大学運営とその体制の確立を目指し、地域や社会に貢献する。

3. 参加団体のプロフィール

NPO 法人　ホスピタル･プレイ協会　すべての子どもの遊びと支援を考える会は、静岡県立大学短期大学部が開催する社会人専門講座　ホスピタル･プレイ・スペシャリスト (HPS) 養成講座修了生による職能団体「日本ホスピタル･プレイ・スタッフ協会」を全身団体とし、さらなる発展を目指し平成 24 年に NPO 法人格を取得した。NPO 法人　ホスピタル･プレイ協会　すべての子どもの遊びと支援を考える会と静岡県立大学短期大学部は、連携しながらホスピタル･プレイ活動の啓発と普及に努めている。

NPO 法人　ホスピタル･プレイ協会　すべての子どもの遊びと支援を考える会の目的は以下のとおりである。

1. 病児や障害児に対して遊びを届ける事業（ホスピタル・プレイ）を行うことにより、病児や障害児の福祉の増進を図るとともに、ホスピタル・プレイを普及するための教育研究活動及びその専門家である HPS（Hospital　Play　Specialist）有資格者のキャリアアップ活動を行うことにより、より多くの病児や障害児が医療と肯定的な関わりを持つことができるよう努め、子どもにやさしい小児医療の実現に寄与することを目的とする。

2. 病児や障害児に対する遊び支援を通して培ったノウハウを生かし、多様な問題を抱える子どもたちすべてに遊びと遊び支援が届くよう、様々な専門職と連携を取りながら、具体的な支援のための方策と方法を開発し、すべての子どもが豊かに遊び、豊かに育まれるよう子どもと家族そして社会にも働きかけることを目的とする。

4. 協働研究事業の期間

平成 27 年 7 月 22 日から平成 28 年 2 月 12 日まで

5. 協働研究事業の背景

HPS は英国で誕生した病児を遊びで支援する専門職である。遊びの持つ力（癒す力 エンパワーする力　表現を促す力など）を活用し、病児や障害児が治療を受ける際受ける可能性がある苦痛を最小限にするだけでなく、医療と一般社会の間に存在する垣根を低くする役割も果たしている。

昨年度、『三鷹ネットワーク大学における HPS 養成教育プログラムの確立に向けた実践的調査研究』という名称で、民学産公協働研究事業をおこなった。研究事業の目的は、看護師や保育士などの医療･福祉従事者が働きながら学ぶ体制を整えるために、限られた時間で柔軟性のあるカリキュラム、より効果的に学べるシステムを構築することであった。協働研究を通じて計３回開催した講座には、関東を中心に、東海、関西をはじめ九州からも、看護師、保育士のほかに小児医療にかかわる多様な専門職が受講した。やはり交通の便の良い三鷹市で開催する利便性が結果として表れている。また、受講生のアンケート結果から、講座の内容に対する満足度が高いこともわかった。昨年の講座が、小児医療や福祉に携わる者のニーズに応えたためであろう。言い換えるならば、ホスピタル･プレイを用いた子ども支援に関心をもつ小児医療･児童福祉従事者が潜在的に存在していること、また、このような臨床的･実践的な学びを深める場が全国的にも不足していることが分かる結果となった。今後取り組むべき課題としては、日本の病児や障害児のウェルビーイングを向上させるためには、交通の利便性が高い地域で、病児や障害児にかかわる専門職が学ぶ場を創造しながら、ホスピタル･プレイのすそ野を広げる活動を進めつつ、ホスピタル･プレイ･スペシャリストという専門職を発展させるシステムを作る必要があると考えられる。

今回の協働研究事業では、日々の業務の中で困惑している小児医療･児童福祉関係者に新しい知見を提供するために、ホスピタル･プレイ講座を開催しながら、すでに資格を保有している HPS にも学びの場を提供し、専門職として認められるために必要不可欠な再登録制度のシステムを構築するための事業をおこなうことを目的とする。HPS の再登録制度はすでに英国では実施されており、日本における HPS 発展のための次の段階として HPS 自らもとらえている。

昨年度と同様に、今年度も講座には全国から受講生が集まることを予想している。本研究事業を通して、子どもにやさしい医療･保健･福祉を提供する関東の拠点として三鷹市をアピールし、同時にホスピタル･プレイ･スペシャリストが専門職として成長･発展するシステムの構築を目指し、研究事業を推進したいと考えている。

6.　協働研究事業の詳細

小児医療･児童福祉にかかわる多様な専門職を対象としてアドバンス･ホスピタル･プレイ講座を開催する。講師は、海外からの先進的な遊び支援の専門家を招へいし、遊び支援の理論から実践までを学ぶ。１回目はニューヨークバンクストリートカレッジ　チャイルド･ライフ養成コースの教員であり、チャイルド・ライフ・スペシャリストでもあるDeborah　B.Vilas 氏を招き、『Child　Centered　Care を学ぶ』をテーマに、遊びをツールとして子どもに支援を行う場合の視点を再確認する。この講座は、CLS の職能団体であるChild　Life　Council の公式トレーニングとして認定されており、これにより日本にいるCLS もまた受講しやすくなるという工夫を行っている。２回目は、英国キングストンカレッジ講師の Norma　Jun-Tai 氏を招き､『HPS としての力を再認識しよう』をテーマに､Hospital Play の基礎を総復習しながら、HPS をさらに強く発展させるためのリーダーシップとマネジメントを学ぶ。３回目は､バーミンガムこども病院 HPS の Emma　Eardley 氏を招へいし、昨年度の講座で特にニーズの高かった死にゆく子どもと家族への支援をさらに学び、日本においてまだ着手されていないグリーフィングの支援方法を模索する。

各回においてアンケート調査を実施し、受講生の満足度と今後の学びたい内容を聞き取り、受講生のネットワークを構築する。また、同じ学びを共有することにより、HPS の再登録制度に関する協議を促進する。

7. 開催結果

(1) 参加者数

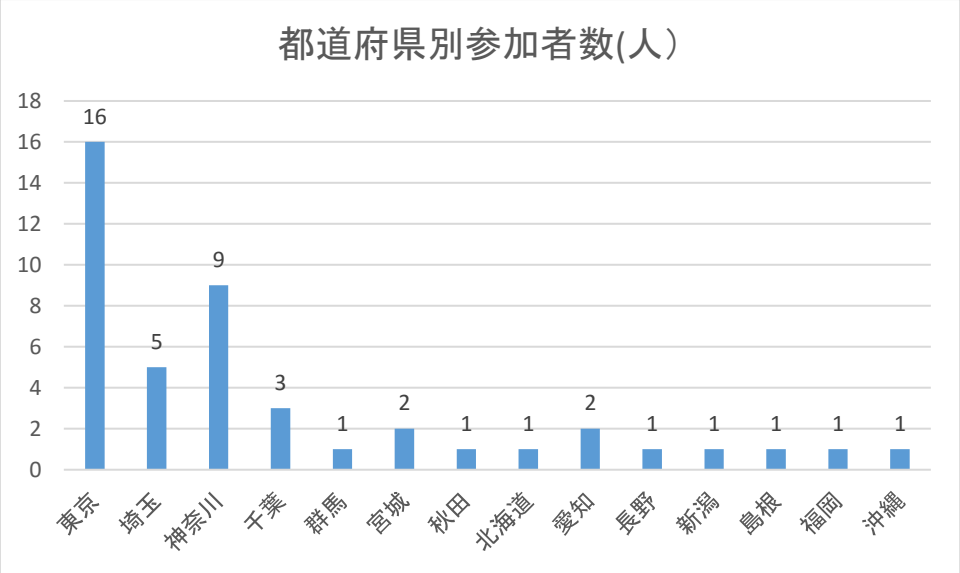
以下に参加者数を示す。

１回目となる平成 27 年８月２日（日）の参加者数は 43 名、２回目となる９月２日（水）は 35 名（１回目・２回目会場：三鷹ネットワーク大学推進機構)、３回目となる平成 28 年１月 24 日（日）は 112 名（会場：静岡県立大学短期大学部）であった。３回とも参加した人数は 26 名（１、２回目は東京会場、３回目は静岡の参加者のみ）であった。

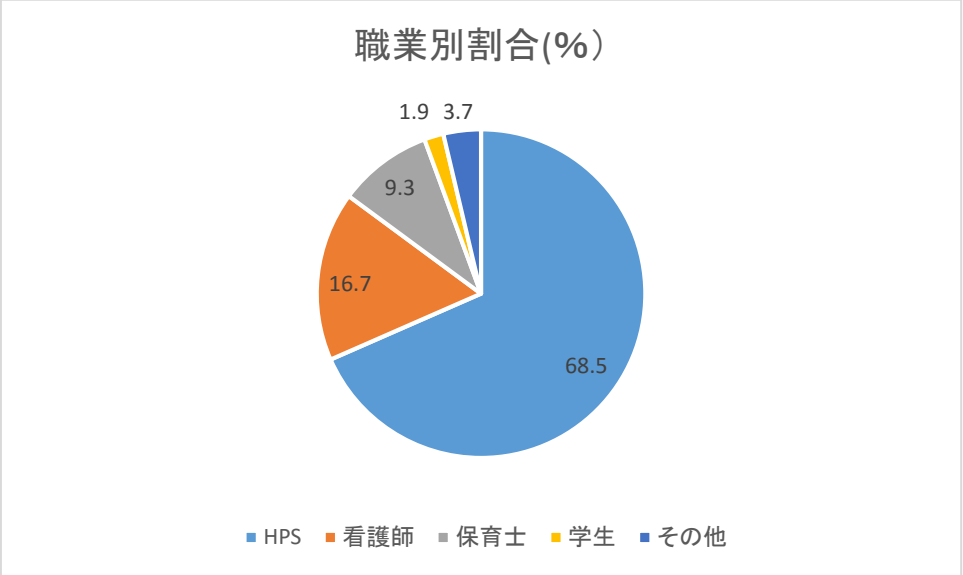
同様の講座を静岡会場（静岡県立大学短期大学部）および大阪会場（新大阪丸ビル）で開講した。１回目の参加者は静岡会場 28 名、大阪会場 22 名、２回目の参加者は静岡会場 31 名、大阪会場 24 名であった。他会場での参加も含め、３回とも参加した人数は、47 名であった。

(2) 参加者の傾向

参加者の都道府県別参加人数および属性を示す。



関東近郊を中心に、北海道から沖縄まで全国から参加者が集まった。



参加者の属性としては、病院や療育施設で勤務する看護師、保育士、HPS（32 名）のほか、保育所保育士、児童養護施設職員、児童クラブ職員、学生、ボランティア等であった。

- 病院で勤務しており、今回の内容・テーマに、とても興味関心を持ちました。ぜひ、受講させて頂き、仕事に役立てたいと思います。
- 重症心身障害児（者）病棟では、介護者の休息、母子分離の目的で短期入所としてくる児童がいます。慣れない環境のため泣いてしまうことが多く、安心できる環境づくりが大事だと思っています。しかし、実際どのように取り組んでいったらよいのかわからない部分が多く悩んでいるときにこの講座を知り、受講しようと思い申し込みをしました。
- 今年度、“HPS 養成講座”へ初めて申込しましたが、選考外となりました。まだまだ勉強不足と思い、事前学習のつもりで今回受講申し込みをしようと思いました。来年度の養成講座にも応募しようと思います。
- 病院で勤める中で出会う子ども達。日々の治療の中で様々な心を抱えながらも、安心できる環境（場所）や「やってみたい」と思う遊びを見つけ、自由に遊んでいるときは柔らかい表情になったり、子ども達から話してくれるきっかけになったり、笑顔がこぼれる瞬間が沢山ありました。その姿を通して、遊びの力と遊びの必要性を改めて感じました。もっと、遊びの力を学び、遊びを介して、安心や治療と向き合う力を生み出し、子ども達の心に寄り添っていけるように、今後の関わりにいかしていきたいと思い、申し込みました。
- 今まで参加して、日々の仕事にとても役立っています。さらにいろいろなことを教

えていただきたいと思います。

- 病気による、又は、発病・再発による、不安・ストレスに対する心理的関わり。その子どもに対する遊びや支援方法等を学ぶ機会とさせて頂きたいと思います。今回も、どうぞ宜しくお願いいたします。
- 現在、あいち小児センターの心療科病棟を担当しています。日常の遊び支援はもとより、小学生には１学期ごと性的虐待の教育を予防として「こころと身体の安全教育：ケアモートプログラム」を実施しています。思春期の子どもたちも多く、甘えられない・甘えられず育ってきた子どもたちのために、ハンドマッサージなどタッチケア、セラピードッグなどを導入しています。「もっと寄り添いたい」でも傷ついたこころを持つ思春期の子どもたちには距離の取り方や言葉がけのタイミングが重要です。このような日々の悩みが解決できるきっかけをいただけたらと思っています。
- 職場の都合上日程が合わず HPS 養成講座を受講できずにいましたが、少しでも取り組んでいけたらと思い、この講座の受講を希望しました。
- 私はチャイルド・ライフ・スペシャリストになりたく、保育士の資格を取得しました。その夢は叶えられていませんが、その後 HPS という資格を知りとても興味を持っています。少しでも知識を得たいと思い、お申し込みをしました。宜しくお願い致します。
- ホスピタル・プレイに関心があるため
- 現在、HPS 週末講座に受講中。
- HPS にとても興味があり、何度か受講させていただいています。自分の子どもの受験など家庭の事情があり、あと、１～２年は HPS の養成講座の申し込みが出来ないので単発の講座にて勉強させていただきたいので参加申し込みします。
- 昨年度 HPS の資格を取得し、日々実践を積む中で、さらにスキルアップをしていきたいと思い受講を希望します
- ホスピタル・プレイについての活動や支援方法を学びたいと思っています。
- HPS に関して知識を深めたく、応募しました。
- HPS としての専門性を高めるため（14 名）

(3) 講義概要およびアンケート結果

第１回　平成 27 年８月２日（日）

①　講義概要

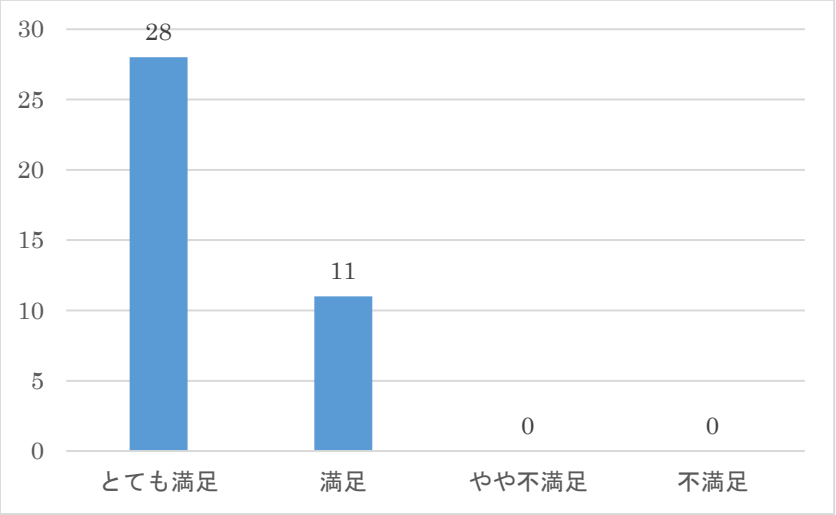
講師：Deborah　B.Vilas／ニューヨーク　バンクストリートカレッジ　チャイルド･ライフ養成コース　教員　，　MS　，CCLS　，LMSW

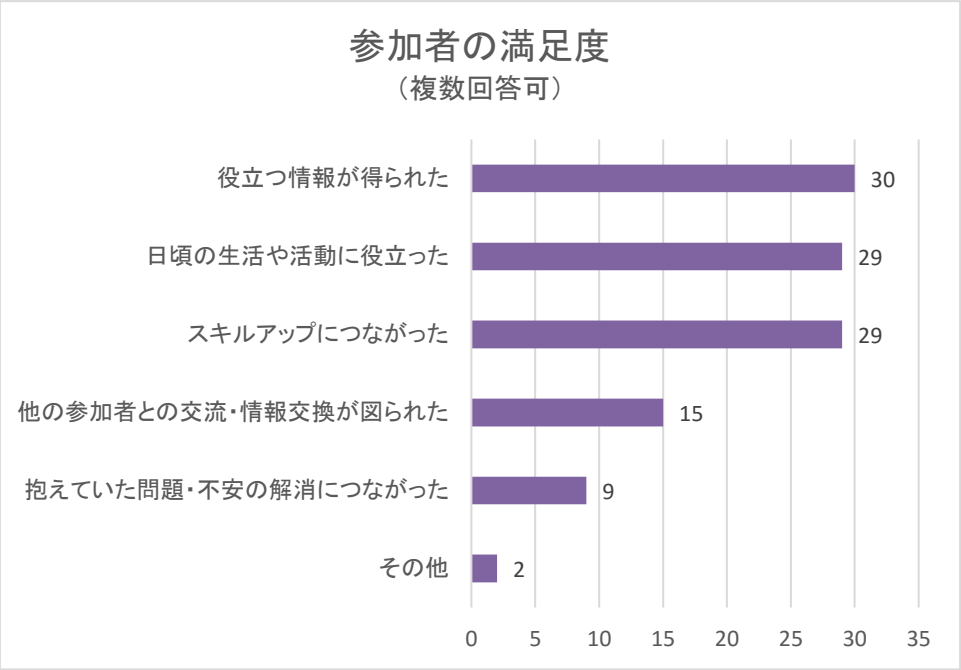
講義概要：「CLS から Child　Centered　Play　を学ぼう」をテーマに、子どもに

とって必要な支援とは何か、子ども自身が一番よく知っているという信念に基づき展開される Child Centered Play の理論と方法および病児に対する支援につなぐための実践を学んだ。

② アンケート結果

参加者数：43 名　　回答者数：39 名　　回答率：90.7％





その他、良かった点

- 病児に対するスタッフの関わり方のノウハウが理解できた。子どもに遊びを通して疾患について理解できる。
- 遊びの機能を言語化して論理的に整理したものを示していただいたことがとても役に立った。
- 具体的ですぐに取り組めるような内容がとても良かった。（いろいろなものがないとできないわけではないとわかりました。）小児医療での遊びの大切さ、意味が分かりました。なかなか理解してもらえないので、文章化していきたい。
- 日頃の保育を振り返り、やっていること・できていなかったことの確認ができた。また HPS が具体的にどのような考えを持って子どもと関わっているのかを知ることができた。
- 今はまだ HPS の資格はないですが日頃の病棟でしていることは間違いじゃない事、もっとできること（Dr.にアピールする）があるとわかった。
- 改めて気づきを得ることができた。子どもと遊ぶ際の言葉がけ、関わりについては迷いもあり、観察する視点が分かり良かった。
- 遊びの要素について改めて学ぶことができた。これまでのリフレクションができると共に改善点が見つけられてよかった。
- 実践もあり、くりかえし行っていき自分の物としていきたい。
- すぐに役立つ（実践）できる活動を知ることができた。また、その論理もわかり、医療と関わる子どもに大切なこと、我々の役割を再確認できた。
- 「不思議な指」子どもから大人までコミュニケーションできる遊びだった。遊びは回復を促す「遊んでいるだけじゃない、発言には立ちあがって訴えてほしい」そのポリシーに感動した。
- 遊びについて９つの重要な項目に分けて、具体的に学べたこと。
- 実際遊びながら学べ、子どもの気持ちに戻り、考え、体感しながら学べて良かった。
- 自らの子どものへの関わり方を振り返ることができた。
- 事例を交えて話が聞けて良かった。スライドの残りのところも聞きたかった。
- 新しい考え方・観点を学ばせて頂けて参考になった。
- トラッキング。３人でのグループワークで実際にしてみて、それについて話し合えたことで自分にない視点や考えを教えてもらえた。

その他の意見、要望等

・チャイルドセンタードプレイについて学ぶことができ、今後の子どもたちとの関わりに役立てることができそう。
・子どもとかかわる上で大切なことを改めて振り返り学ぶことができ、今回の講義に参加できてよかった。HPS への興味がさらに高まった。

・実際に体験できるのが嬉しかった。
・はじめて HPS のセミナーを受けましたが、とてもわかりやすかった。腹話術を医療・福祉分野で活用するためのヒントをいただいた。
・明日への遊びにつながることをたくさん学んだ。
・今回 CLS の方からいろいろと教えて頂く貴重な機会をいただけたこと、とてもありがたかった。これから HPS、CLS など同業種の人と一緒にすすめたらと本当に思った。
・会員になるにはどうしたらなれるのでしょうか。
・急遽でしたが参加させていただき、先生のお話をさらに聞けてとても勉強になった。たくさんの力をつけていきたいと思った。
・今病院で行っていることと照らし合わせながら、話を聞き、これからも行っていくべきもの、これから取り入れていかなければならないものがよくわかった。また、普段行っていることを文章化することで、自分だけではなく医療者全員に伝えていかなければならない大切さを知った。今回の講義で得た情報を元に病院で行える身近なことから取り入れていきたいと思う。
・医療とは繋がりのない立場のプレイワーカーとして参加させていただいた。児童館や学童クラブの仕事、とりわけ「遊び」にこだわって普段活動している。「遊び」のもつ重要性について共有化できてよかった。
・３つの会場にしてもらえたため、日程が合わせやすかった。今後は３つ等で開催してもらいたい。

第２回　平成 27 年９月２日（水）

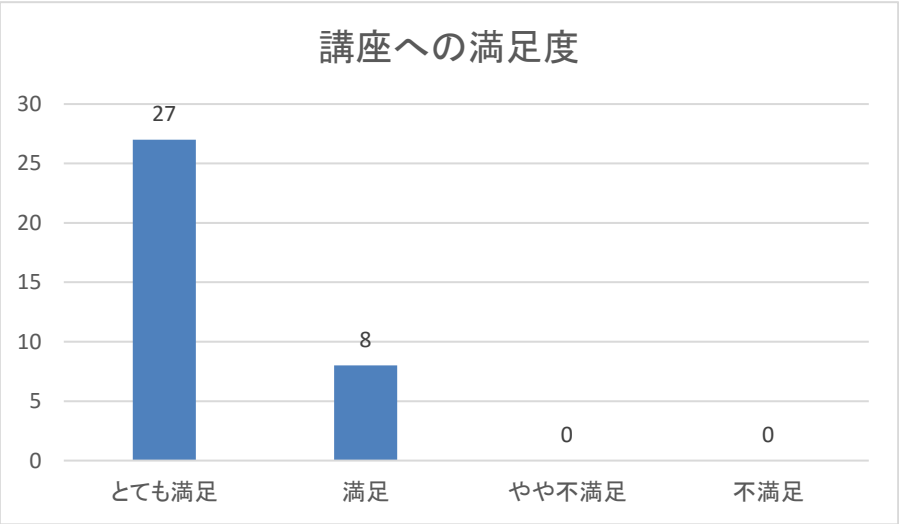
① 講義概要

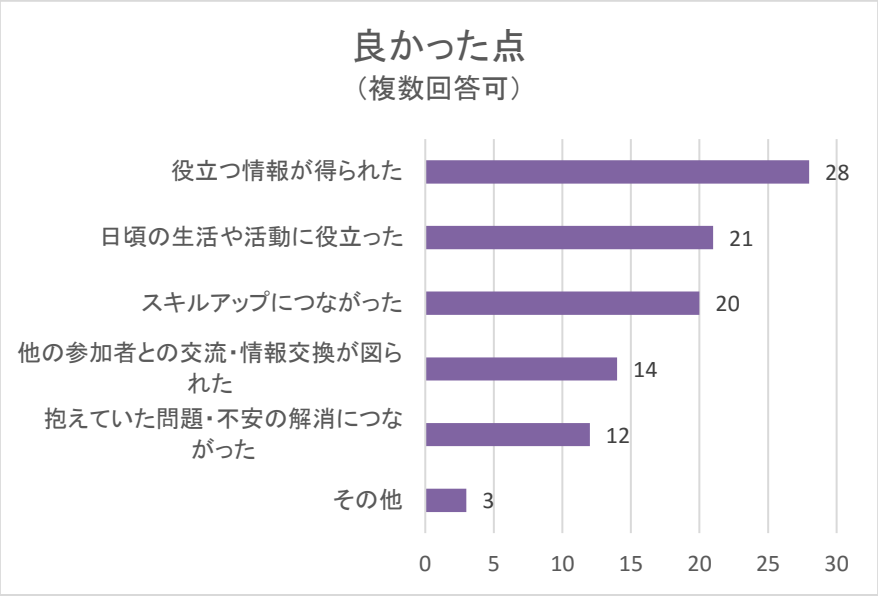
講師：Norma　Jun-Tai／キングストンカレッジ　Arts　and　Social　Sciences 学教員　，　元 NAHPS 会長　，HPS

講義概要：「HPS としての力を再確認しよう」をテーマに、Hospital　Play の基礎を再確認し、Hospital　Play をさらに大きく強く発展させるためのリーダーシップとマネジメントを学んだ。

② アンケート結果

参加者数：35 名　　回答者数：35 名　　回答率：100％





その他、良かった点

・日頃 HPS として一人で活動していくと様々な風にぶつかったり、心が疲れてモチベーションが下がることもあるが、子どもの事を病棟の中で一番知っている専門家としてどうあるべきか、理論的に教えて頂いた。明日から初心に返って頑張っていこうと思った。元気を貰った。

・理論で自分のやっていることを確認すると言うことに気づいた。HPS に興味を持ち、受講させていただいた。職種は腹話術師だがセラピーとしての活用を考えていく中でとても参考になった。引き続き学んでいきたいと思う。パペットセラピー学会でも話題にしようと思う。

・脳腫瘍の事例の紙についても聞きたかった。

・これから職場で改めて体制を見直し、自分自身のアピールをしていかなくてはいけない状況だったので、今日の講座は本当にためになり、具体的に先を考えることができた。

・HPS として、その活動の意義を深く再考する機会となった。

・行き詰まった時の思考の癖を見直し、前進していくための考え方、順序、方法を学んだ。

・理論と言う点で自分には足りない部分が多いと感じるので、学べて良かった。

・HPS をもっている方、持っていない方関係なく、それぞれの現場での実践を話せてよかった。

・自分自身が次のステップに進まなくてはならない時期にこの理論づけの講座で整理が付き、今後の準備の見通しができた。

・自分自身を振り返る機会になった。

・今まさに直面している問題で、胸が痛くなりながらも今後の自分のあり方について考えることができた。

その他の意見、要望

・HPS を国としてバックアップしていくシステムが必要と思った。そのために、遊びが子どもの成長に欠かせないという考え方の専門職と連携していけたらよいと思った。
・グループディスカッションの時間が短く、１人くらいしか自分の意見を言えない。もっと時間をとるか、テーマをシンプルにしていただけたら。
・HPS、是非とってみたいと思った。
・HPS になりたいと思っている者です。今回実際に HPS として働いておられる方や HPS だけど看護師として主に働いておられる方のお話を聞けて良かった。自分が今少しずつやっていることが先は長いけれど目標に近づいているのが再確認できた。困っていることも共通点が多く、とても参考になった。また心強いアドバイスもいただけて嬉しかった。
・プレパレーションの評価について他施設や諸外国ではどのようにされているのか教えてください。
・最近リフレクションをすることをおろそかにしていたと反省した。自分の行動を具体的に振り返り、今後の目標を細かく立てていきたいと思う。
・HPS の会員ではなかったのですが、参加をさせていただくことができ、大変嬉しく勉強になった。今後ぜひ HPS の勉強をしていきたいと思った。
・明日からどう取り組んでいくか、どうしたいか、明確な目標を立てることができた。
・今抱えている悩み（どうやって活動を拡げていくか、リーダーシップをとっていくのか）に対してどのように考え、行動していけば良いか学んでいくことができてよかった。
・新しい職場になり、なかなか思うようにできない現状がある。「なぜできないのか」が自分の傾向も踏まえ、考えられるきっかけを勉強できたように思う。
・HPS になってからぶつかる壁がたくさんあって落ち込むこともありますが、今日の講義を聞けて、また明日からモチベーションをもって子どもたちのために活動していきたいと思った。
・復習用学習ログ内容をもっと深めたかった。事例を学べることが大切と思った。
・イギリスでの HPS 活動について詳細に教えて頂き大変勉強になった。

第３回　平成 28 年１月 24 日（日）

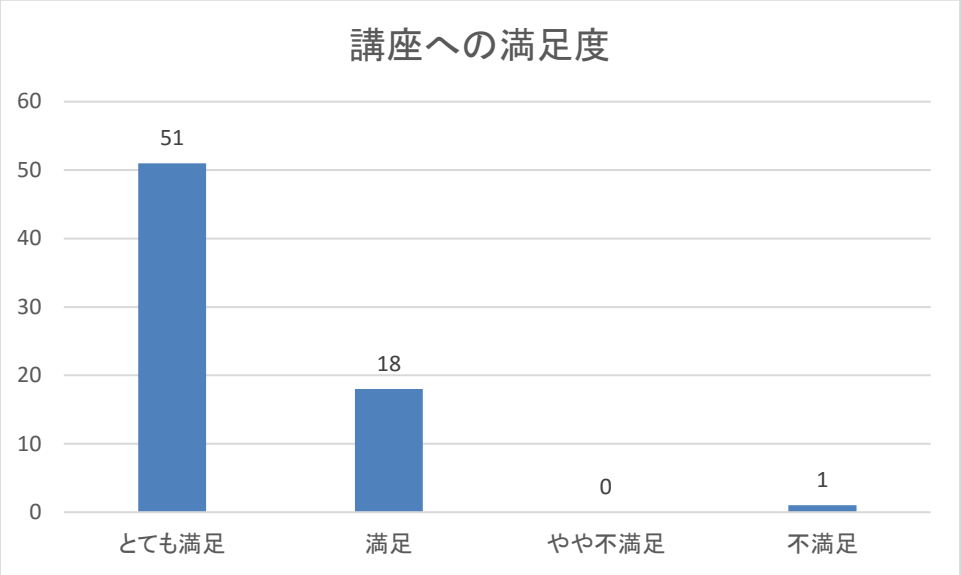
① 講義概要

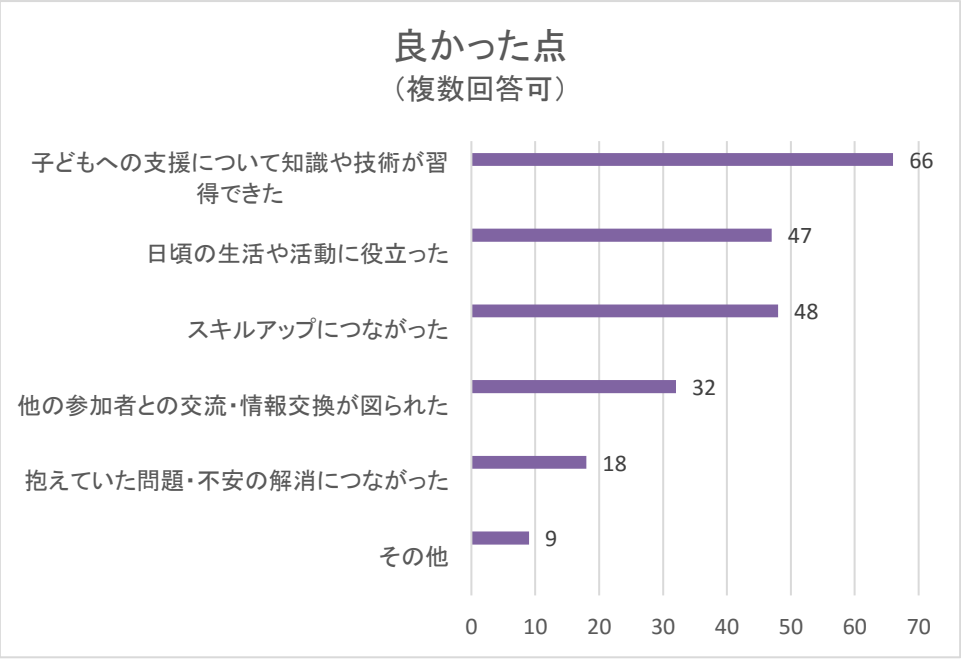
講師：Emma　Eardley／バーミンガムこども病院　上級 HPS、
NAPHS（National　Association　of　Health　Play　Specialist）会長、
HPSET 理事
静岡県立大学短期大学部　社会人専門講座 HPS 養成講座講師

講義概要：「バーミンガムこども病院の HPS から学ぶ」をテーマに、医療的ケアを受ける子どもやいのちの終わりを迎える子どもときょうだい、家族をホスピタル・プレイで支援するための理論と実践を学んだ。

② アンケート結果

参加者数：112 名　　回答者数：75 名　　回答率：65.2%

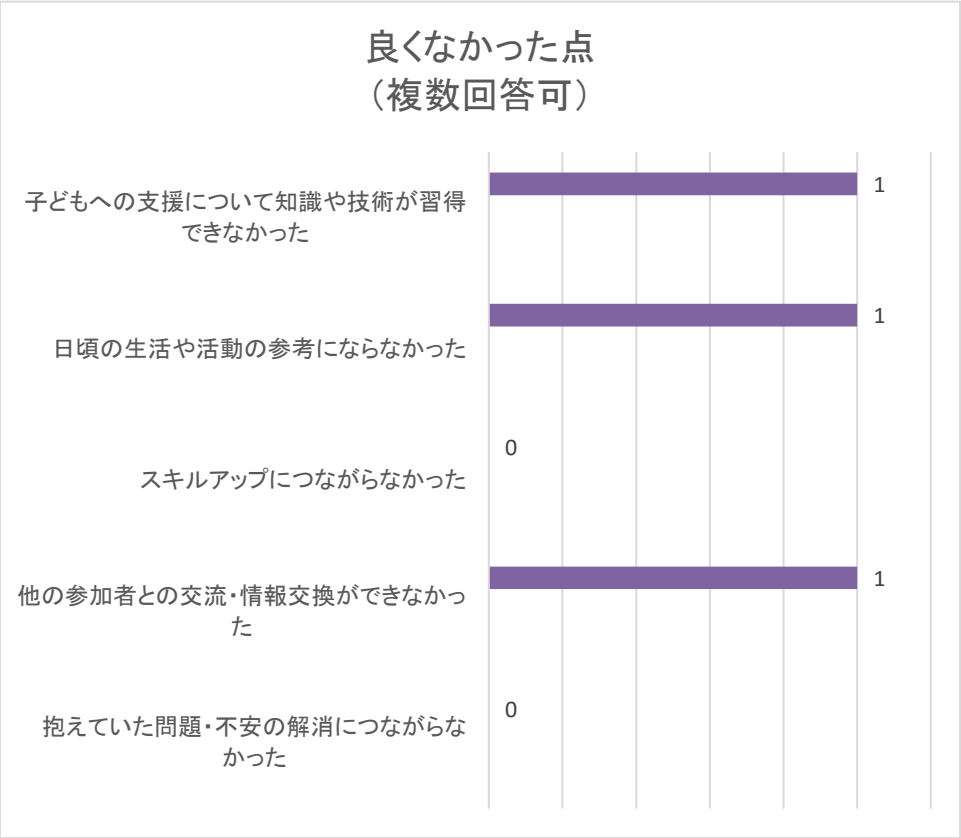




その他

- それぞれの項目にアクティビティがあり実際に経験することで感覚が掴みやすかったです。
- HPS が何をどう考えて子どもと関わっているか、具体的に知れてよかった。
- 自分たちが毎日行っているディストラクションのあり方をもう一度見直す良い機会を得た。

・エマ先生の子どもへの温かさ、揺るがなさが伝わってきました。
・エマ先生のスキルアップ講座はとても役に立つ内容でした。実践内容がとても印象に残りました。
・レジリエンスの形成を支援する役割やビリーブケントケアの役割を学ぶことができ、今後の実践につなげていけると感じた。
・研修自体が自分の迷う揺れる心を癒してくれた。
・日頃の活動に戻ったら即実践できるツールや技術、知識を習得できました。
・エマ先生の英国での実践を聞けてとても感動しました。自分の動機づけができました。
・とても参考になり明日への力になりました。小さなことを無理せず、内容の充実したことをやっていこうと思います。



その他

・法人から郵送されてきた講座のタイトルと内容がほとんど一致していなかった。グリーフケア、パラティブケア等における子どもとの関わり、支援の視点が学べるとあったが、期待した深い内容にはまったく触れられていなかった。
・会場案内が分かりにくかったため、初めての人でもわかるように提示していただきたい。

その他の意見・要望

・参加できて本当に良かったです。自分の病院を変えていきたい気持ちがさらに強くなりました。
・自分自身の力不足を感じ、目が覚めました。少しずつ病棟を変えられるよう努力します。
・小さな積み重ねが大事だということを学んだので今いる場所で何ができるのかしっかりと考えていきたいです。
・英国では子どもの自立について HPS がどのように関わっているのか知りたいです。
・一つ一つの支援に細かな目的、意味があること、そしてそれだけの観察力、理解力、どんな状況でも冷静に対処することが必要であると感じました。
・ぜひ HPS になりたい！モチベーションがアップしました！
・途中のアクティビティ用の用紙は事前に配布しておくとタイムロスが減ると思いました。
・いのちのおわりの時期のかかわり方をもっと学ぶ機会が欲しい。
・静岡以外のいろいろなところでこのような講座が開かれたらいいなと思います。
・たくさんのことを学ぶことができました。少しずつできることから初めてみたいと思いました。

8.　考察および今後の計画

今回の「民学産公」協働研究事業では、小児医療・児童福祉関係者への開かれた専門的な学びの場であるアドバンス・ホスピタル･プレイを開催した。病気や障害をもつ子どもとその家族への、実践的な支援方法とその根拠となる知識を学べる本教育プログラムは、他に類を見ない。今回の講座は Child　Life　Council の公式トレーニングに認定され、HPS と CLS がともに学ぶ場は今回の協働研究事業がわが国では初となった。

講義後のアンケートから、職場内でも研修は行われているものの、アドバンス・ホスピタル･プレイの講座のように、通常の業務や小児医療、児童福祉の分野に限定されることの無い、より多職種連携の広い視点からのアプローチに対する知見が得られたことが、受講生の満足度につながったと考えられる。今後の課題として、３点を挙げる。

１．講座を継続する必要性

受講生たちの多くが職場の問題として表現することが、孤立感である。本講座は、職場内では相談しづらいことや、他のスタッフには理解しがたい思いや希望などを表現する場でもある。講座で行われるアクティビティやグループワークは、他の受講生との交流を積極的に促すものであり、そのため受講生は情緒的なサポートを感じるようである。社会人が働き続けるために、このような学びの場を形成することは必要不可欠な基盤となることが明確であろう。講座への参加によって他の受講生との交流により解決策が得られた受講生もいるのではないだろうか。

２．国際的な視点を継続して取り入れる必要性

本講座は、ホスピタル･プレイに関する海外からの先進事例を学ぶ貴重な機会である。英国や米国が小児医療の質の改善と向上にどのように取り組んでいるのかを学ぶ機会は、受講生にとって大変強いエビデンスとなり、同時に励ましにつながっている。講座ではグリーフケア、パラティブケアなどのテーマも取り上げた。死に直面する子どもに対する支援、グリーフケアを一日の講座で学ぶことは文化的・宗教的背景から困難であり、理論や倫理的問題への学びを深める必要がある。受講生のニーズに応えられるよう、先進事例を紹介していきたい。

３．多様な講座形態の整えること

社会人が働きながら学ぶためには、社会人が参加しやすい週末または夜間で開講する講座の設置が望ましいが、会場の条件が整わないという課題がある。また、シリーズで連続した開講が求められるため、同一の会場を複数回確保する必要もある。さらに、演習的な要素が多い講座のために、ある程度の広さや設備も必要となる。HPS 資格取得者に対する再登録制度システムを本格的に導入するにあたり、より多くの社会人のニーズに応えられるような整備が必要である。